

# 町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1  
電話：74-0212 FAX：74-0105  
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

## 不安なときは相談を

### ▼第9回おしどり学園



▲「ひとりで悩まず相談を！」と佐藤さん

1月21日、第9回おしどり学園を開きました。

今回は、「知っていますか？くらしの危険」と題して、消費生活相談員の佐藤亜紀子さんが講演を行いました。

佐藤さんが町に相談員として来るようになって約10年。月2回程度、役場産業振興課で相談業務を行っています（通常は

産業振興課職員が相談対応）。今回は「くらしの危険」について、さまざまな事例を上げて説明しました。

まず始めに、みそ汁を鍋で温めようとしたら、強化ガラスのふたが粉々に砕けて鍋の中に落下したという衝撃的な写真から話が始まりました。割れたふたのガラスをNITE（製品評価基盤機構）に送った結果、加熱のし過ぎで火がふたに当たったことにより、ヒビが入ったのではないかとのことでした。

消費生活相談の役割は、消費者被害が発生すると、消費者安全法に基づいて助言とあっせんを行うことです。構築された「全国消費生活情報ネットワークシステム」によって、全国の消費者事故の情報収集・分析をして、再発防止やリスクの低い製品開発に向けて必要な情報を発信しています。

2020年度の相談は、全国で94万件もあり、その90%が取引に関する被害でした。例えば、電話で「カニを買ってくれ」とかかってきて、

断っているにもかかわらず「ありがとうございました」と一方的にカニを送ってくる強引なケースを紹介。「うちにもかかってきた」とうなずく参加者の姿もありました。

次に、消費者の安全のために、消費生活用製品安全法によるPSCマーク制度を説明。圧力鍋、登山用ロープ、石油ストーブ、乳幼児ベットの、ライターなどの特定の製品については、国の定めた基準に適合した旨のPSCマークがないと販売できません。

佐藤さんは、製品に関するトラブル事例を紹介し、事故を未然に防ぐポイントとして、①買うときや選ぶときに「価格やデザイン機能性よりも、使いやすさと安全性を確認して買う」「使いこなせる商品か、家族や店の人とよく検討して納得できるものを選ぶ」「保証書を受け取り、記載事項を確かめ、領収書とともに決まった場所へ保管する」②取扱説明書をよく読む。「誤使用の防止」「使用上の注意（特に危険、警告、注意事項を留意して禁止されている使い方はしない）」③長年使っている製品は点検すること④小さな子供には安全確保に家族が気を付ける⑤高齢者には周囲の人が気を配ること、と締めくくりました。

学園生は、買い物をしたり、製品を使うときの安全確保の心構えを再認識した講演会となりました。

## 次回おしどり学園のご案内

日時 3月25日（金）午前9時30分/場所 町公民館講堂  
内容 閉講式・記念講演  
講演 「まほろばの郷

語り継ぐ上菅・福長の伝承と歴史」

講師 菅福元気邑 代表 小谷博徳さん  
【問合せ・申込み】町公民館（74-0212）

## 子どもたちの安全のために

### ▼町青少年育成会がパトロール

小中学校の終業式が行われた12月24日、町青少年育成会の会員22人で、街頭指導パトロールを行いました。

この日は、根雨と黒坂の町周辺を巡回。終業式が終わり、下校する児童を見守ったり、町民の方にあいさつをしたりして、青少年の安全を見守る活動を行いました。

青少年育成会では、今後も非行防止・防犯活動に努め、子どもたちの成長や安全を見守っていききたいと思います。

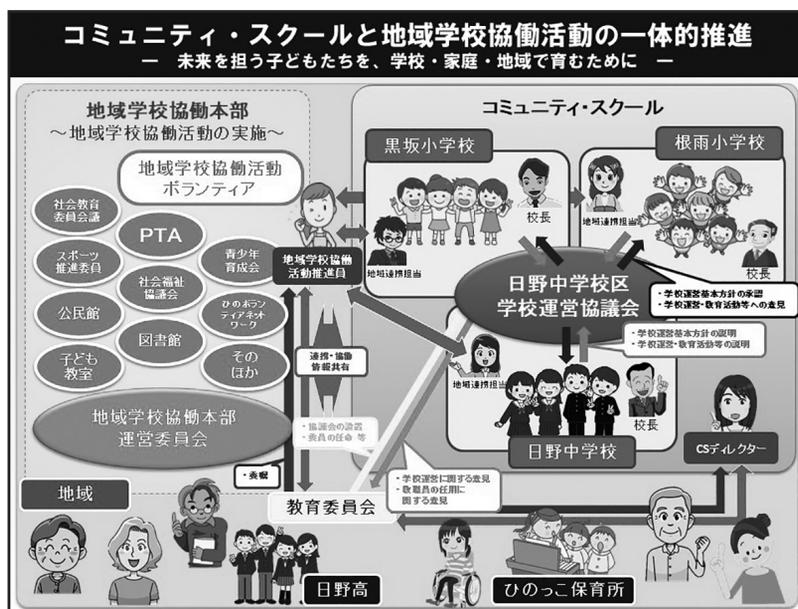


▲パトロールに出発する会員

未来を担う子どもたちを育てるために、黒坂小学校、根雨小学校、日野中学校は、コミュニティ・スクールとして家庭や地域の皆さんとともに取り組みを進めています。一方で、学校を核としながら地域づくりを進めていく地域学校協働活動に、地域の皆さんが主体となって取り組んでいただいています。

コミュニティ・スクールには学校運営協議会が置かれ、そこで子どもたちや学校の課題などについて協議し、実践に移しています。また、地域学校協働活動を進めていくために、地域学校協働本部運営委員会を置き、学校とめざす子ども像を共有しながら、どのような取り組みができるのかを話し合い実践しています。

コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に進め、これからの時代を生きていく子どもたちに必要な力をはぐくんでいきます。



## 学校運営協議会で話し合っていること

第2回では、「日野町の将来を見据え、今、「学校」「地域」で取り組むこと」をテーマに、熟議を行いました。地域、学校、保護者など、それぞれの立場から、問題点や課題について現状や願いを踏まえた上でのアクションプラン(解決策)について考えました。「地域行事への参加」や「地域と関わる機会の創出」、「子どもたちのアイデアを生かした行事の計画」など、具体的なプランを出し合い、それらを通して子どもたちにどのような力を身につけさせたいのか確認しました。

第3回では、各学校から2学期の行事や取り組みの報告がありました。第2回のアクションプランが実際に具体的な活動として展開されていると感じます。

委員：地域代表8人、保護者代表3人、学校長3人、有識者1人 計15人

## 地域学校協働本部運営委員会で話し合っていること

環境整備や登下校時の見守りボランティアをする人がいないということが、何度となく話し合われています。登録されているボランティアの皆さんも、年齢的なこともあり、無理にお願いできない状況です。これらについては、今後も課題としてあがると思われますので、町民の皆さんからの支援を広く募ることはひとつの方法だと思います。

各学校がふるさとキャリア教育に取り組み、ゲストティーチャーを積極的に依頼しています。学校に来てお話をいただくだけでなく、子どもたちが現地に行き学習する機会も増えています。

委員：社会教育関係5人、PTA関係1人、地域・ボランティア等団体関係2人、学校関係3人、有識者1人 計12人



★ Facebookでも情報をお届けしています (<https://facebook.com/hinocommunityschool/>)

【問合せ先】町教育委員会事務局 (電話 72-2107)